

超高齢者の Herpes Zoster に対する アシクロビルの低用量内服治療について

たか みや おさむ
高 宮 収

はじめに

アシクロビルによる Herpes Zoster (以下 HZ) の治療には、個人の年齢、血中クレアチニン値、体重、性別により算出される用量が投与されることが一般的である。今回、超高齢者 (90才以上) 4例において、この用量の 1/3~1/6 の投与量で、良好な治療効果を得ることができた。その内 1例では 1/3 の用量投与中の血中アシクロビル濃度を測定した。その結果は、VZV の ID50 から考えて HZ の治療に効果が十分期待できる濃度に達していた。メーカーによれば一般的に算出された用量を投与した場合でも、意識喪失など重篤な副作用が、極まれに発生する。超高齢者では、そのリスクは大きくなることは想像に堅くない。超高齢者においては今一度、アシクロビルの投与量を再検討する必要があるのではなかろうか。

I 症 例

【症例 1】95歳 女性 体重 35 kg

既往歴：心室性期外収縮、大動脈弁狭窄症

ADL：室内歩行安定、外出はまれ、認知症なし

内服薬：なし

現病歴：平成 7 年 4 月 7 日、家族が皮疹に気づき
往診依頼あり、夕方往診した。

所見：右下腹部～右腰部に広範囲に HZ に特有の
水泡を伴う皮疹を認めた。皮疹は下腹部腰部と
も、わずかに正中を越えていた。皮疹に感染の
徴候はなかった。自覚症状は痒みのみで疼痛の
訴えはなかった。

年齢・血中クレアチニン値・体重・性別より
求められる Ccr に基づくメーカー推奨アシク
ロビル投与量は 2,400 mg/日であったが全身状
態を考慮して、あえて 800 mg/日分 4 毎食後眠
前に内服投与とした。

経過：4月10日には、皮疹は縮小乾燥し、一部痂
皮形成を認めた。アシクロビル著効と考え、
800 mg/日内服を継続した。4月14日には、皮
疹は著明に縮小しそのほとんどが痂皮形成して
いた。痒みの症状も消失し、アシクロビル投与
は 7 日間で投与終了とした。投与期間中、精神
神経系、消化器系、全身状態に副作用は認めら
れなかった。表 1 にアシクロビル投与前後の臨
床検査値を示した。特に異常は認められなかつ
た。

4月14日午前 8 時にアシクロビル 200 mg を
内服してもらい、内服前、内服後 1 時間、1.5
時間、2 時間、4 時間に採血し血中濃度測定を